



復刊第136号
題字 吉岡 弥生

巻頭言

副会長 野呂幸枝

平成五年九月三日、梅雨期の長く激しい降雨のため水浸し状態になっていた西日本に台風13号が襲いかかりました。鹿児島を中心として甚大な被害を受けるようすが刻々と報道されました。ことに金峰町では避難所や民家が裏山の土砂崩れの直撃にあい、五十人もの犠牲者が出たことは、何とも痛ましい限りです。

鹿児島は桜島の火山灰が積もったもので地盤が軟弱、とある学者が述べておられましたが、このような地質学の専門家の意見が、なぜ町や村作りに役立てられなかったのかという非常に単純な疑問が浮びます。

自然の恵みは偉大なものですが、一旦荒れ狂うと人の力では防ぎようのないものです。地震、台風、洪水などの発生源を断つことは不可能で

すが、災害の子知、被害の減少などの研究を十分にすること、その研究成果が実施できる組織作りをもっと完全にしてほしいものです。

この13号台風は観測史上、第二室戸台風、伊勢湾台風につき、三番目に大きな台風ときまします。大阪を襲った第二室戸台風を私は経験していませんが、今日私が存在しているのは、あの日の危険を逃れた結果であると、幸いな運命に感謝するのです。

室戸台風は私の女学校五年生の九月でした。登校した私たちは三階の窓から瓦や看板が木の葉のように舞い上るのを叫び声をあげながら見物していました。まもなく「何々小学校が崩壊した」「何人生きうめになつた」などの報道に泣きだす少女もいました。この時おこった、数人の

小学生を胸に保護しながら、自身は校舎の下敷となって亡くなった吉岡訓導の美談は有名です。

引き続き高潮で大阪湾の近くは軒下まで浸水しました。まだ水の引かない翌々日、女学校の担任に命じられて友人の水害見舞に行きました。まだ五〇cmほど水のためたまった道を渡り、ついには立往生してしまいました。今思うと、水の中のマンホールに落ちたかもしれません。破傷風に感染して(当時は破傷風はよくありました)命を失うことになったかもしれない。幸い何事もなく、強烈な思い出として残ったのみです。

さて私は最近、患者の側から医療を見る立場にあることが多くありました。天災とも考えるべき原因不明の疾患に接することもたびたびあります。たえず医療知識の向上につとめると共に、患者の心を大切に、信頼され、安心を与えることが必要であると思えます。

最近、私の後輩が「心なき医療」と題した本を出しました。プロラクチン産生腺腫の手術の結果、愛嬢を失った医師の手記です。一流の医師、優れた医療器具のある病院で人間不在の医療を受けたと結論しています。

人の力の及ばない天災と違い、事故、疾病は学問の進歩により予防、治療が可能な場合が多く、たとえ不可能な疾患でも心のこもった看護によって安心が得られるでしょう。こう思うとき、臨床医の重要さを痛感いたします。

つづき

巻頭言.....	野呂 幸枝 (1)
高齢女医(日本女医学会会員)の医療活動及び社会活動の現況.....	野澤 良美 (2)
第12回学術研究助成研究経過報告	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)院内感染防止対策の検討.....	西嶋 攝子 (3)
母子関係・父子関係の双方鑑定を可能とするミトコンドリアDNAプローブの開発.....	澤口 聡子 (4)
胃癌組織におけるFlow cytometryを用いたCEA定量法の確立.....	玉井美妃子 (4)
インスリン自己免疫症候群の分子生物学的発症機序の解明.....	内潟 安子 (4)
肝線維化過程における細胞外基質の分解系の動態とその調節.....	高原 昭美 (5)
マウス小脳原基のプルキンエ細胞におけるソマトスタチンmRNAの発現.....	今城 純子 (6)
*	
清水友代先生の叙勲を祝して.....	小林 梅子 (6)
私の大学/東京医科歯科大学医学部.....	青井 禮子 (7)
医学的にみたキリストの復活.....	小出つる子 (7)
理事会議事録.....	(8)
会員動静.....	(8)
編集後記.....	(8)

〈国際女医学会第5回西太平洋地域会議ワークショップ〉

高齢女医(日本女医学会会員)の医療活動及び社会活動の現況

日本女医学会理事 野澤良美

前号で申し上げたようにアンケート調査のご報告をいたします。多数の会員の先生方のご協力を頂きまして、誠に有難うございました。

図1-1 会員の年齢分布

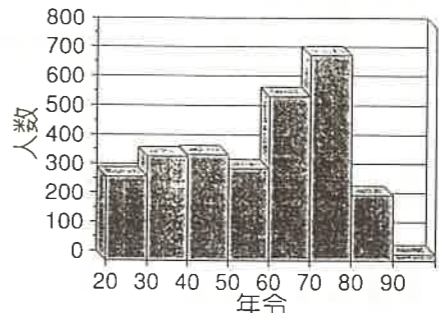
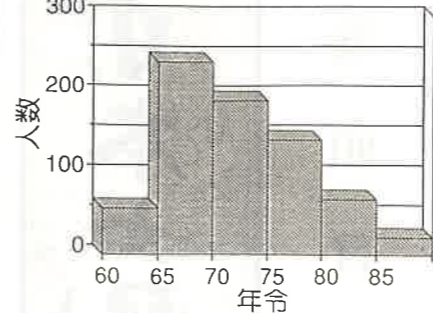
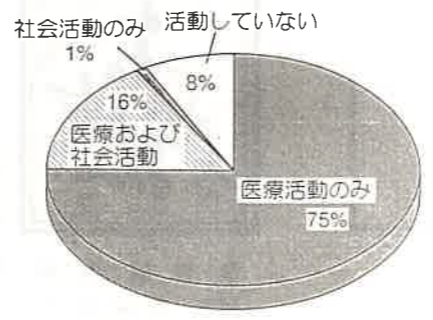


図1-2 アンケート回答者の年齢分布



六十五歳以上の老人の健康と社会的問題は、現在、世界中が直面している最も重要な課題の一つである。国際女医学会第5回西太平洋地域会議が一九九三年五月二十日〜二十二日まで京都で行われることになり、ワークショップのテーマの一つに「高齢女医の医療活動及び社会活動」が採り上げられた。そこで、一九九二年八月、日本女医学会会員の中で、一九五一年(昭和二十六年)卒より以前の卒業会員一、四四二名を対象に、高齢女医の医療活動及び社会活動の現況についてアンケート調査を行った。回答数は七二七通(50・45%)であった。その結果を報告する。

図2 医療・社会活動状況



・日本女医学会会員の年齢構成は、七十〜八十歳代が最も多いが、アンケート回答者の年齢構成は六十五〜七十歳が最多数を占め、ついで七十〜七十五歳が続いている(図1)。
・医療及び社会活動状況については、医療活動のみの会員が75%、医療活動と社会活動の両者を行っている会員が16%、医療活動も社会活動もしていない会員が8%、社会活動のみをしている会員が1%であった(図2)。
・医療活動従事者の年齢別構成は、六十二〜六十五歳までが98%と最も

図4 医療活動内容(のべ人数)

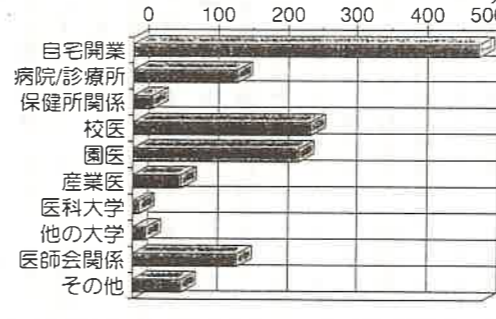
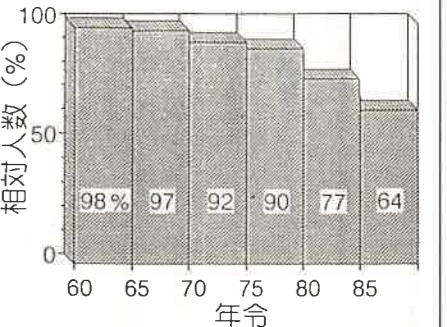


図3 医療活動従事者



社会活動従事者

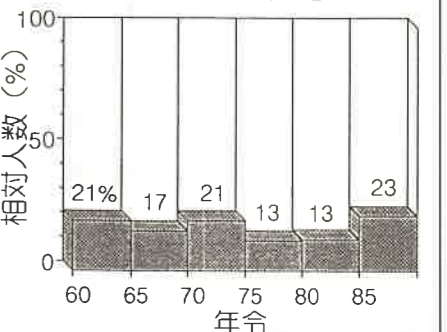
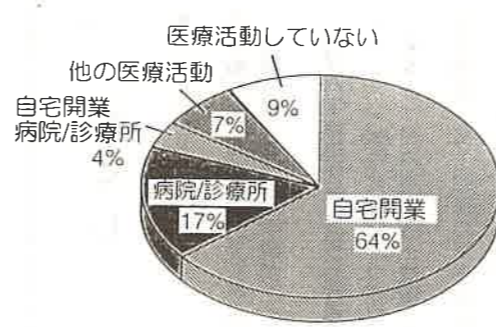
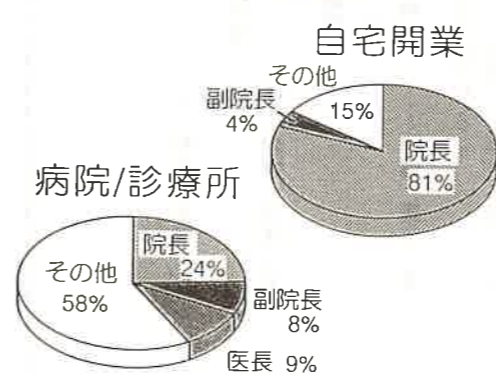


図5 医療活動状況

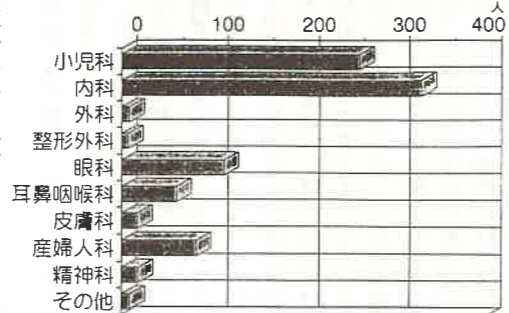


多く、年齢が高くなるにつれて減少している。しかし、八十五歳以上でも64%が医療に従事している。一方、社会活動従事者は年齢による差は認められない(約20%前後)(図3)。
・医療活動の内容は、自宅開業が圧倒的に多く(約20%前後)であり、産業界は余り多くない(図4)。
・医療活動の行われている場所は、



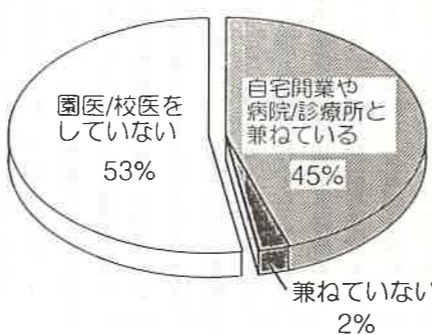
自宅が64%と最も多く、17%が病院、7%がその他である。会員の役職については、自宅開業の場合、院長が81%であるが、病院の場合には、24%が院長、8%が副院長、9%が医長、その他58%であった。即ち、多くの会員は肩書きのつかない臨床医として病院で働いている(図5)。
・診療科は、内科、小児科が大部分を占め(64%)、ついで眼科、耳鼻

図6 診療科名(のべ人数)

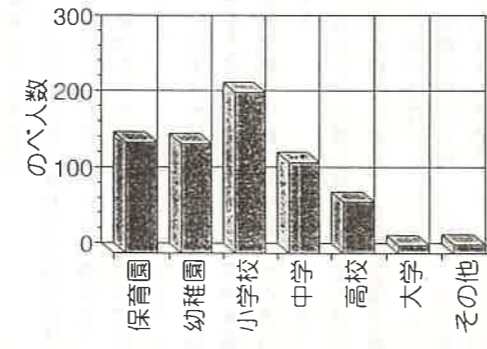


咽喉科、産婦人科が続いている(図6)。
・会員の45%は自宅での診療と校医等を兼務しているが、校医としては小学校校医が最も多数を占め、続いて保育園医、幼稚園医である(図7)。

図7 園医/校医

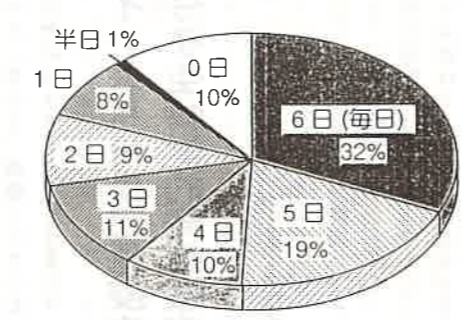


・週間の医療活動日数は毎日(六日)が32%、ついで五日の19%で、四日の10%を加えると61%の会員は実働日数が多い。年齢別では六十五〜六十九歳までは毎日診療している割合が40%、ついで七十〜七十四歳までの32%であり、高齢になるにつ



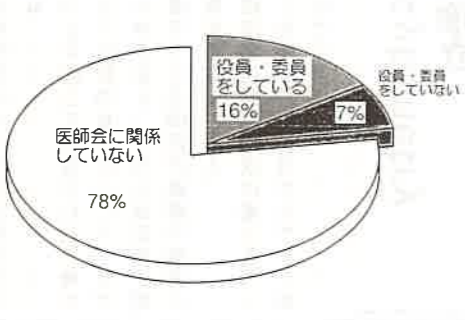
従って週間診療日数は減少する。しかしながら、八十五〜八十九歳でもその25%が週四日以上働いている。これは驚異的なことであり、また非常に喜ばしい現状である(図8)。
・医師会の役員や委員をしている会員は16%である。一九九一年度の

図8 週の医療活動日数



統計によると全医師数に対する女医総数の割合は11・2%である。今回調査の対象となった年齢層の男性医師数が分らないので、直接比較は出来ないが、16%と言う数字は、女医の活躍が医師会にも反映している」と評価して宜しいのではなからうか(図9)。

図9 医療活動者のうちの医師会関係者



結論として、アンケートに回答された六十二歳以上九十歳までの日本女医学会会員の91%が現役の医師として、しかも週間実働日数が四日以上という医療活動に従事していることが明らかになった。また、45%の会員が校医や園医等社会活動をしていることも明らかになった。それぞれ年齢に則したやり方で地域の医療に貢献しておられることが分かり、心強いกำลังใจである。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)院内感染防止対策の検討

兵庫支部 西嶋 攝子

*第12回学術研究助成研究経過報告

我々の施設におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の保菌状況の疫学的検討を「病棟を対象として実施した」。

から黄色ブドウ球菌(S. aureus)を含むMRSAを分離した。職員、患者は鼻腔前庭と手指爪下から試料を採取した。分離した S. aureus (含むMRSA) は薬剤感受性、コアグラーゼ型、ファージ型別を行った。

医師、看護婦、患者、合計八十三人中十七人(20・5%)からMRSAが分離された。患者では二十七人中十一人(40・8%)、看護婦では二十一人中四人(15・4%)、医師では三十人中二人(6・7%)からMRSAが分離された。

対象者の部位別分離頻度は鼻腔前庭、両手爪下の三カ所すべてからMRSAが分離されたのは、患者で五人(18・5%)、看護婦で一人(4%)であった。鼻腔前庭と片手爪下の二カ所からMRSAが分離された

最後に、以上のアンケート調査に際し、回答をお寄せいただいた多数の会員の先生方のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。なお、アンケート集計などご協力を頂きました橋本葉子先生、島谷祐一先生(東京女子医科大学・第一生理学教室)及び日本女医学会事務局の関美恵子氏に深く感謝申し上げます。

Table 1 Summary of Clinical Findings of Patients at Onset of IAS

Table with 10 columns: Pct No., Ethnic background, Age, Sex, IRI (uU/ml), 125I insulin binding(%), Drug, Associated disease, HLA-DR. It lists clinical data for 37 patients.

MTZ, Methimazole; MPG, d-mercaptopyronyl glycine; GTG, Gold thioglucose; TBM, Tolbutamide; GTT, Glutathione; NIDDM, non insulin-dependent diabetes mellitus.

に少ないことである。この疾患がインスリン自己抗体の異常産生とどういふことから特定のHLA型との相関の有無に興味をもたれた。そこで出来る限りのインスリン自己抗体症候群患者血液を全国より集めて、その血清学的HLAタイプを比較検討してみた。

対象と方法 これまでに報告があったIAS患者の血液を全国の主治医より供与していただいた。総インスリン量(Total IRI)やインスリン抗体価(%)、125I-Insulin binding) はそれぞれSIAS発症時のものを主治医より得た。HLAの血清学的タイプは標準的microlymphocyte toxicity test法によりおこなった。class II C DNA タイピングはPCR-SSO法に代った。SSOプローブは digoxigenin-11-d UTP でラベルされたものを用いて、PCRサンプルとスロットハイブリ

ダイゼーションした。結果 Table 1に日本人三十七名の臨床像と血清学的HLA-DRタイプを示した。すべてのインスリン抗体はIgGクラスであった。またすべての患者はインスリン注射歴がなかった。これはインスリン自己抗体と考慮される。いずれの患者も発症時大量のTotal IRIとインスリン抗体価をもつていた。Table 1に示したように

早いもので12回学術研究助成をいただいた。もう一年になりました。昨年研究助成をいただいた時に、瀬戸大橋を初めて渡った感激が今でも思い出されます。現在、私は富山医科大学第三内科に籍を置き、主に肝臓疾患の患者さんの診療にたずさわっています。昨今C型肝炎に対するインターフェロン療法が目まぐるしく、この慢性肝炎が進行してしまつと、

肝線維化過程における細胞外基質の分解系の動態とその調節

肝臓病の終末といわれる肝硬変となつたり、肝細胞癌を併発してしまつたため、慢性肝炎の治療が重要となるわけである。慢性肝炎から肝硬変に進化する時の主な病態が肝線維化であり、私たちはこの肝線維化の病態の解明を主眼として研究してまいりました。ここにその研究の一部を紹介いたします。

富山支部 高原照美

肝線維化においては、コラーゲンをはじめ、プロテオグリカン、ラミ

通常親子鑑定では子の認知に関する父子関係存在確認を求められるが、場合により、母子関係存在確認・母子父子両関係存在確認あるいは同胞半同胞関係確認が必要となる。これら後者の事例に対応するために、母子関係父子関係の双方鑑定を同時に可能とするプローブの開発を本研究の目的として仮説している。

核遺伝子系とミトコンドリア遺伝子系とは細胞内において物理的隔たりがあり互いに独立して動くものとされてきた。しかし最近両遺伝子系の協同発現が指摘される。このことから二重支配域のミトコンドリアDNA配列に着目し、この部分の塩基配列に基づいた合成プローブによるザンブロット法を施行することにより、母子関係父子関係双方同時鑑定を行うことが、理論的に可能である。この場合、共通配列としては酸化的P酸化系の九つの核遺伝子の5'非翻

胃腸は今日減少傾向にあるとはいへ悪性腫瘍において大きな位置を占めております。私が当科に入局して以来、同程度の進行度の患者さんでも異なる経過

インスリン自己免疫症候群(IIA S)は一九七〇年平田幸正らによって初めて報告された疾患である。この症候群はインスリン注射歴がないにもかかわらず突発的に重症の低

血糖症状を起こす疾患である。血中には大量のヒトインスリンとそれに結合した高力価の抗インスリン抗体が存在する。もう一つ特徴的なことはこの疾患が日本人に多く、欧米人

母子関係・父子関係の双方鑑定を可能とするミトコンドリアDNAプローブの開発

昨年五月に日本女医学会第12回学術研究助成を賜りまして早くも一年以上が経ちました。その節は、誠に有難うございました。助成金を授与していただいた時の緊張感は今も鮮明に覚えております。

胃がんは今日減少傾向にあるとはいへ悪性腫瘍において大きな位置を占めております。私が当科に入局して以来、同程度の進行度の患者さんでも異なる経過

をとり事をまのあたりに致し、患者さんの予後において癌細胞そのものの悪性度をみきわめることが大切なのではないかと考えました。そこで消化器癌の腫瘍マーカーとして有用なCEAに着目し、細胞レベルにおけるCEA産生をFlow cytometry

のほ、患者で二人(7.4%)、看護婦で二人(7.7%)、医師で二人(6.7%)であった。手爪下からのみMRSAが分離された者は0であった。S. aureus同様MRSAも鼻腔前庭に保菌されており、ヒトからの菌の拡散は鼻腔前庭から起こると考えられた。

胃がんは今日減少傾向にあるとはいへ悪性腫瘍において大きな位置を占めております。私が当科に入局して以来、同程度の進行度の患者さんでも異なる経過

をとり事をまのあたりに致し、患者さんの予後において癌細胞そのものの悪性度をみきわめることが大切なのではないかと考えました。そこで消化器癌の腫瘍マーカーとして有用なCEAに着目し、細胞レベルにおけるCEA産生をFlow cytometry

をとり事をまのあたりに致し、患者さんの予後において癌細胞そのものの悪性度をみきわめることが大切なのではないかと考えました。そこで消化器癌の腫瘍マーカーとして有用なCEAに着目し、細胞レベルにおけるCEA産生をFlow cytometry

性患者を中心に拡散していくと考えられた。患者、看護婦、医師より分離されたS. aureus七十四株についてコラーゼ型別、ファージ群別も施行した。この内MRSAを見てみると三十六株中二十五株(69%)がコラーゼII型であった。ファージ群では not typable (NT) が二十二株(61%)であった。従って我々の病棟の医療従事者および患者から分離されたMRSAはコラーゼII型、ファージ群ではNTが最優位であり、この型のMRSAの病院内拡散が示唆された。

胃がんは今日減少傾向にあるとはいへ悪性腫瘍において大きな位置を占めております。私が当科に入局して以来、同程度の進行度の患者さんでも異なる経過

をとり事をまのあたりに致し、患者さんの予後において癌細胞そのものの悪性度をみきわめることが大切なのではないかと考えました。そこで消化器癌の腫瘍マーカーとして有用なCEAに着目し、細胞レベルにおけるCEA産生をFlow cytometry

をとり事をまのあたりに致し、患者さんの予後において癌細胞そのものの悪性度をみきわめることが大切なのではないかと考えました。そこで消化器癌の腫瘍マーカーとして有用なCEAに着目し、細胞レベルにおけるCEA産生をFlow cytometry

大阪第8支部 玉井美妃子

ニン、フィブロネクチン等が病的に増加しますが、まずその成因はこれらの細胞外マトリックスの産生系の増加の関与が考えられます。私たちは、種々の肝障害モデルを用いて、マトリックスの増加、その産生細胞の同定を免疫電子顕微鏡を用いて検討しました。つまり肝臓においては、従来ビタミンAの代謝に関与していると考えられていた伊東細胞によって、これらほとんどのマトリックスが産生されていること、さらにこれらの産生は炎症と密接な関係があること、サイトカインのなかでも「 $\text{GF-}\beta$ が up-regulate していること」

清水友代先生の叙勲を祝して

山梨県支部長 小林 梅子



平成五年四月、我ら山梨県女医の代表清水友代先生が春の叙勲で勲五等瑞宝賞を受けられた。心から祝意を表す。

清水先生は一九一一年広島県の産で現在八十二歳でいらつしやる。昭和七年帝国女子医学専門学校（現東邦医大）のご出身で、早々に山梨県の清水八東先生（産婦人科）と結ばれ当県の人となられた。ご本人は眼科医であるため、ご主人が出征中のみ眼科を開業しておられたが、その後清水産婦人科はご主人とご子息に委せ、ご自分はフリーの立場で社会活動、社会奉仕につくされた。専門の眼科でもっぱら県や市の学校保健の向上に長年尽力されて来たので、その点が認められての文部省推薦の今回の受賞である。

その他ストロメライン、4型コラゲナーゼ、さらにこれらに対する阻害剤であるコラゲナーゼインヒビターの動態は、まだ十分解明されておらず、現在各種肝障害モデルを用いてこれらの解明に全力を注いでおります。今回の助成によって、さらに研究に弾みがつき教室員一同感謝しております。今後、ますます努力を重ね、肝線維化の解明に努め、不治の病とされる肝硬変への進展が阻止されるように研究を進めてまいりたいと思っております。研究助成、誠にありがとうございました。

お人柄は、人なつこい、温かい、ヒューマニティに富んだ、少しこわい点もあるが、常に明るくて楽しい、わがままな所しておしやれ（これは人後に落ちない）の方で、欲しい物を買おう時や、寄附を頼まれた時などの歯切れの良さは羨ましいくらいである。教えられることが多い。

多趣味のご主人がたたくさんの会のリーダー的存在で、先生のお人柄を慕っている方々も集まる。この来客へのサービスは全部、よく気のつく友代先生がなさっていらした。ご主人亡き後も会議室を開放なさり気持ちよく貸して下さるので、多方面の人が相も変わらず集まってくる。八十歳を期にいろいろの役職を去られた。でもまだお元気で。どうぞ我ら後輩の行く手にいつまでも輝いていてください。

マウス小脳原基のプルキンエ細胞におけるソマトスタチン mRNA の発現

千葉支部 今城 純子

私は、in situ hybridization 法により、すでに胎生後期のマウス小脳にクラスター状にソマトスタチンの mRNA が発現していることを見出し、おけるソマトスタチンの mRNA 発現部位と、幼若プルキンエ細胞の分布の相互関係を in situ hybridization と免疫組織化学による二重染色法を確立して、同一切片上で明らかにしてみようということで学術研究助成に応募いたしました。

方法：胎生十四日と十六日のマウス胎仔を用いた。胎仔を取り出し、浸潤固定を行ったものをクリオスタットで10 μm の切片を作成した。プルキンエ細胞の特異的マーカー Somatostatin に対する抗体を用いて、免疫染色を行った。免疫染色後さらに同一切片上で、ソマトスタチン cDNA より作製した ^{35}S -標識 RNA probe を用いて、in situ hybridization を行った。

結果と考察：マウス胎仔の小脳は、抗 Somatostatin 抗体でクラスター状の分布を示した。ソマトスタチン mRNA もクラスター状の分布を示したが、免疫陽性細胞と重なるところに発現した部位とそうでない部位があることが明らかとなった。幼若プルキンエ細胞は、ソマトスタチン mRNA を発現するものとしていないものに分類することができた。また、ソマトスタチンが発現する神経細胞の中には、発生段階で死んでいくものがあるという報告と、プルキンエ細胞は、発生段階で数が減って行くという報告をあわせると、ソマトスタチンを発現するプルキンエ細胞は死の運命をたどるのではないかと推測された。

ちょうど、助成金をいただいた時期に、慶応義塾大学より、日本医科大学に移動したこともあり、たいへんありがたく使わせていただきました。本当にありがとうございます。

私の大学〔東京医科歯科大学医学部〕

葛飾支部 青井 禮子

昭和三年十月勅令により東京高等歯科医学校の設置が発令され、これが我が校の始まりとなりました。歯科学の充実を目指したものでしたが、昭和十八年には歯科大学昇格を目標に歯学研究科に内科学、外科学を加えて新しい歯科医師養成が始まりました。折しも太平洋戦争のため医師不足となり、昭和十九年より東京医学歯学専門学校と改称、医学科に第一回生八十名が入学。ここに事実上の東京医科歯科大学の原型ができました。

その後、昭和二十四年に新学制が実施され、予科がなくなり、医学部・歯学部の特設課程四年間のみを授業をする大学となり、他の大学の教養課程二年修了者は誰でも本校を受験できることとなりました。その結果入試倍率六十倍と騒がれたりしましたが間もなく千葉県市川市国府台に分校が完成、六年制完全実施となりました。

当時は医学部四十名、しかも女子学生は数名、時にはゼロの学年もあり、現在は医学部八十名中十数人、二割近くになりましたが、いずれにせよ狭き門といふべきでしょう。

卒業生数が少ないため、附属病院

医学的にみたキリストの復活

高知支部 小出 つる子

私は仏教徒で仏教には割と詳しいと思っております。

いろいろなお経を和文として考えながら読んでいますが、キリストが本當の聖書は読んでいると頭が痛くなります。（象徴的すぎて…）

さて、キリストについてのことですが、「キリストの復活」というのがありますが、十字架の上で槍で突かれて死んだあとで、洞窟の中で蘇

活性化し、研究も活発になると大いに期待しています。一時、キャンパスの狭さから府中への移転が企画されましたが、都心という地の利は捨て難く、高層化で対処することとなり、お茶の水駅の目の前に年々新病棟・新研究棟が完成してゆき、今や威容(?)を誇っています。私の在学中はインドネシアや中国の留学生たちがたくさんおられました。旧校舎は狭く、本国の高官が来日されたとき案内するのが恥しいといっていたのも遠い昔の懐かしい思い出となつてしまいました。これからもこの地の利を活かして、国内外からの多数の研究者を集めて、わが校がますます発展して行くと欲しく願っています。

死後復活というのがちょっとわかりにくいことでしたけど、今回ポルトガルやスペインへ（六月）旅をして、（大体ヨーロッパの国を旅すると美術館と教会めぐりが多いのですが）いろいろなキリスト像を眺めて（拝むというべきですが）よく見てふと気がついたので、槍の傷がすべて右胸に描かれたり、または彫刻に表わされているのに気付きました。

それも大体第七から八の肋骨の所にあります。そうすると右中肺葉から下肺葉に相当する所と思えますから心臓に関係なく、せいぜい気胸をおこすくらいだし、傷口が開創口になつて気胸も起こさないかも知れませんが、弱りはてていたキリストはそれで一時的に失神したのであって、あとで信者たちが十字架からおろして洞窟のような静かなところへ安置

ある産婦人科の先生から聞いたことでもありますので不思議ではありません。また不特定多数の場合は父がわからない。と言つたらクリスチャンに怒鳴られますから…）

手をかざして病気が治つたりしたのはキリストが生まれたとき、東方から三人の博士が来た。東方は即ちインドで、インドはそれまでに釈迦が慈悲を解き、アユルベエダやシユルタなど高度の医学知識もあつたのでイエスに教えたことの中に気功もあつたと思います。

その気功の気をあたえて、ある程度修業をつんだ人では出来ることです。

復活してからの布教活動についてはあまり本にもありませんし、また本人も体力的に、身近の弟子たちには最後の教えをいろいろ話したくらいではなかつたのであろうかと思えます（復活してからの事跡について詳しい方は教えていただきたいと思えます）。

さて、それから美術全集や、方々の教会のエバガキをいろいろ眺めて見ましたが、右胸に傷があるのがほとんどで（傷の見えないものも多い）、案外十字架上のキリストの画は少ないようで、キリストをたすけ降しての画や、マリアが死んだキリストを抱いてなげいている画や彫刻は多いようです。有名な彫刻としてはミケランジェロのピエタ（悲しむという意）がバチカンで有名ですが、それにも胸の傷はないようです。（写真ではわかりませんが、もう一度バチカンへ行ったらよく見てみます）

* この稿は高知女医学会誌にも一部掲載いたしました。クリスチャンがよく知っている方はいないようです。

理事会議事録

日時：平成5年6月26日(土)
午後3時30分より
場所：京王プラザホテル

「ひかり」

出席者：山崎、佐藤、野呂、青井、
稲生、白浜、中濱、二村、野本、
橋川、橋本、小田、川田、栗原、
佐々木、佐野、関口、南雲、松井、
丸茂、森田、大原、藤岡

欠席者：白橋、石原、平敷、明石、
小出、田中、野澤、吉崎、土井

議事検討事項
山崎会長
故、三好美春常任理事、かねてより御病氣御療養中のところ平成5年5月7日、御永眠遊ばされる。故、三好常任理事の御冥福を心よりお祈りし、出席者全員で黙禱を捧げる。

東京女子医科大学地域保健研究会より代表者二名来訪、地域保健研究会補助として山崎会長より三〇万円授与。昨年度活動報告書の提出があ

つた。

庶務報告

以下、別紙どおり報告。承認
追加事項：山崎会長より日本医師会会長宛に西太平洋地域

会議終了の報告および礼状を送付。併せて西太平洋地域会議のレポートを提出、日医ニュースに掲載される予定。

会計報告

平成5年4月分、5月分収支別紙どおり報告。承認

各部報告

【事業部】 白浜常任理事
7月15日、年金委員会開催の予定。橋本常任理事

【学術部】

日本女医学会学術部活動に関するアンケート結果(平成5年5月23日、評議員会席上にて実施)の報告あり。地域ブロックにおける学術講演会やワークショップ開催については全員賛成。

【広報部】

プランナー、テーマ等については今後検討する。中濱常任理事

平成五年度第一回シンポジウム

日時 平成五年十一月二十三日(火・祭日)

会場 東京シティークラブ

港区赤坂七―三―三八 プラスカナタ地下一階

電話 〇三(三四〇一) 一一二二番

主題 M R S A ― 現状と対策―

6月22日第一三五号誌割付会議。野本常任理事
6月4日国際婦人年一九九三年度総会に出席、各公共団体を中心に男女雇用機会均等法について等の報告あり。

【渉外部】

西太平洋地域会議について
山崎会長、佐藤組織委員長より会議が無事成功裡に終了した旨の報告と挨拶あり。

会議参加者：一〇カ国二九七名(登録者は三三三名)。

会議の会計収支中間報告あり(平成5年5月末現在)。

報告書(プロフィール)を五〇〇部および手揚げカバンを三五〇個作成し次の方々々に礼状を添え送付する。

補助金またはご寄付をいただいた企業……………報告書

ご寄付をいただいた会員(会議参加者は除く)：報告書・カバン登録をされて会議に出席出来なかつた方……………報告書・カバン

地域保健研究会への助成について
東京女子医科大学地域保健研究会に三〇万円交付する。

事業部、平成五年度事業計画について

平成五年度事業、公衆衛生活動の内容(エイズ予防に関する協力事業)に関して検討の結果継続審議とする。

定款改正について
役員の数、現在の役員会の在り方等について検討する。また今後

より前進的な会の運営がなされるよう厚生省の指導も仰ぎながら定款の改正について検討する。

平成6年(第39回)総会について

期日：平成6年5月28日(土)
場所：東京
東京都支部連合会の先生方に総会開催に向けてご協力を願う。

その他

日本女医学会事務職員に夏期手当を支給する(例年どおり二・三ヵ月分)。

副会長(庶務部担当) 佐藤

編集後記

長梅雨が終わらないうちに、そのまま秋になったような今年のお天気でしたが、皆様お元気でお過ごしのことと存じます。

米どころの東北では、新聞に飢饉という言葉や、農家が自家用に米を買い話や、熊が食物を求めて里に降りてきた記事などがのり、今年の収穫への不安感がつのりします。

さて、研究助成金の報告論文を読みますと、最近の医学の進歩を感じます。このようなレポートを一字一字しっかりと読めるのは、編集委員をしてのことの役得の一つです。

会員動静

入会会員(敬称略)

- 杉並支部 堀口純江
東女医学内支部 小笠原寿恵
福岡支部 堀幸江
退会会員 十五名
物故会員
北支部 三好美春
神奈川支部 清野愛子
山梨支部 石井美子
長野支部 草野きみ
福井支部 佐々木 待
三重支部 加藤正子
愛知支部 新実静江

今号の圧巻はなんといっても野澤先生の日本の高齢女医の活動の現況に関する報告です。先輩女医の偉大さ、いくつになっても社会に役割を持っていられる女医という職業の有難さを痛感します。(小田泰子)

平成5年10月20日 印刷
平成5年10月25日 発行

編集人 稲生 襄

発行人 日本女医学会

発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル

社団法人 日本女医学会

電話 三三九八―〇五七一

制作 東京都文京区水道1-5-16

株式会社 金剛出版